

種智院大學 同窓會報

第16号

平成6年1月31日

京都市南区壬生通八条下る東寺町545
種智院大学同窓会

種智院大学公開講座始まる

大学における公開講座は、大学の学問が社会に開かれたものであるという使命に基づき、全国各大学ですでに開催されてきた。とくに、文部省においても、生涯教育・社会教育の充実という要請もあって、積極的にこれを支援してきた。しかし残念なことに、本学では、十数年前に伝授の公開講座が開かれたが、その後、公開講座開催の気運が何度かおこりながら、実現をみなかった。

小規模の大学であり、教員スタッフが十分にそろわないとか、あるいは来聴する方がいないのではないとか、大学の施設を一般の方々に開放することを危ぶむ意見等があったためである。このため、同窓生の方々から、強く公開講座を求める声がありながら、黙視するかたちとなっていたのであった。

しかし、同窓会を中心とする勧募活動によって、新校舎ができ、校舎の持つ社会的機能が十分に備わってきたこと、また、平成4年より今井圓明学長を迎え、学内の体制の刷新がはかられ、社会的要請に応じていくべきことが確認されるに至り、平成5年10月より、公開講座の開催にふみ切ったのであった。

大学では、当初、秋・春2回程度と考えていたが、10月の山崎泰廣先生の公開講座に、約100名ほどの人々が参加されたこともあって、社会的な要請、とくに密教への関心がすこぶる高いことをふまえ、11月以降2月まで「密教シリーズ」と題して、毎月開講することになった。

山崎泰廣先生の講座では、泉涌寺門跡小林海暢猥下をはじめ宗門の方々、同窓生、一般市民、学生保護者、教職員、在学生等々、多岐に及ぶ人々が参集した。

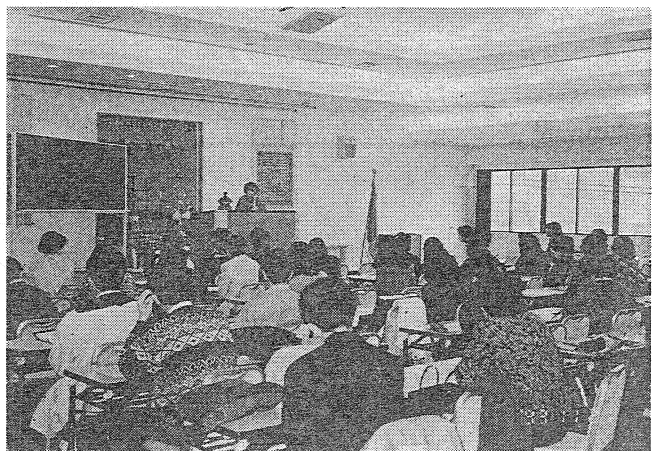
この日は、10月の御影供でもあり、法要に参加した学生が引きつづいて参加し、東寺御影供にいられた一般市民の方々も、大学の案内板を見て参加されるなど、なごやかな雰囲気うちに開催された。

同窓会の皆様には、すでに大学より案内状が届けられ、また各本山、関係機関にも数多く案内状を配布し、よりいっそうそのPRに努めている。

第2回 中村幸子先生の講座は、11月27日(土)に開催され、80名余りの方々の参加があり、同窓生、一般市民の方々が多く参加され、中村先生の著書にも高い関心が寄せられ、終始熱心な雰囲気につつまれていた。

第3回 吉田元先生の講座は、12月21日(火)に開催。善通寺法主蓮生善隆猥下をはじめ80余名の方々が参加、遠近各地から集まった同窓生、一般市民、学生が熱心に聞き入っていた。

以後、別記のとおり、2月まで計5回開催の予定。平成6年4月からは「社会福祉シリーズ」の開催を計画している。



公開講座風景

種智院大学公開講座のご案内

種智院大学

■1993年10月～1994年2月

一般来聴歓迎 聴講無料

会場／種智院大学 3階講堂

☆お問い合わせ 種智院大学広報課

〒601 京都市南区壬生通八条下る東寺町545

TEL (075) 681-6513 (代表)

密教シリーズ

10月21日(木) 11:00～12:00 シリーズ(1) 「瞑想について」

講師・種智院大学教授 山崎泰廣

阿字観を中心とする密教瞑想法をヨーガ・生理学・深層心理学の面からも究明し、
 「宇宙と自己」について瞑想する。近年、海外からの関心も高まってきた。

11月27日(土) 13:30～15:00 シリーズ(2) 「仏画のこころ」

講師・種智院大学教授 中村幸子

仏教が日本へ伝来して以来、多くの経典と共に仏教文化も伝わってきた。ここでは
 中でも仏画に限定して、その歴史を眺めてみる。

12月21日(火) 13:30～15:00 シリーズ(3) 「ヨーロッパ人のみた弘法大師」

講師・種智院大学教授 吉田元

江戸時代、天明期に来日したオランダ商館長ティツィングは、弘法大師の詳細な伝
 記を紹介した。ヨーロッパ人の目にうつった弘法大師像を眺めてみる。

1994年1月21日(金) 11:00～12:30 シリーズ(4) 「チベット密教の修法・儀式」

講師・種智院大学教授 北村太道

現在チベット密教諸派に伝承される灌頂や護摩の修法儀式をスライドを使用して、そ
 の一端を紹介する。(約130名参加)

1994年2月21日(月) 13:30～15:00 シリーズ(5) 「マンダラの再発見」

講師・種智院大学教授 頼富本宏

密教の中心であるマンダラは、最近、美術のみならず、思想、実践などの多くの分野
 から再評価されている。今回は特に、イメージの世界からマンダラの再発見を提唱した
 い。

■交通案内 J R—京都駅八条口より西へ徒歩15分

近 鉄—東寺駅より徒歩13分

市バス—東寺東門下車徒歩5分

吉田裕信猥下・晋山式

総本山仁和寺第四十六世門跡、吉田裕信猥下の晋山式は、10月20日挙行された。当日は各総大本山主、重役、各界の代表者約600名の来賓が参列。竹内崇峯高野山真言宗管長をはじめ多数の方々の祝辞があり、また晋山披露宴は全日空ホテルで開催され、井上紀生大覚寺門跡、田辺朋之京都市市長の祝辞、今井圓明中山寺長老・種智院大学学長の乾杯の発声があり、盛会のうちに式宴がとり行われた。

藤田研道猥下・東寺派管長就任祝賀会

真言宗東寺派では、10月25日、京都センチュリーホテルに於いて藤田研道管長猥下の就任祝賀会を開催。上村正剛智山派宗務総長の祝辞があり、中館仙雅師はじめ本学同窓生も多数参列した。

上井寛圓猥下・大覚寺門跡に就任

11月19日、井上紀生門跡猥下任期満了に伴う後任門跡を決定する選定宗会において、上井寛圓猥下の当選が確定した。

上井猥下は、昭和七年、京都専門学校卒。昭和四十六年大僧正特任。兵庫県氷上郡氷上町、別格本山高山寺住職。

高井隆秀猥下・晋山式

総本山智積院第六十六世化主、智山派管長高井隆秀猥下の晋山式が11月24日挙行された。各総本山主、重役、各界代表約千余名の来賓が参列。

竹内崇峯高野山真言宗管長猥下、鶴飼慶範全日本仏教会副会長等の祝辞があり、また晋山披露宴は京都パークホテルで開催され、小林海暢泉涌寺長老猥下の祝辞、藤井龍心前化主猥下の乾杯の発声があり、盛会のうちに式、宴がとり行われた。

>>>支部だより>>>>>>>>>>>>>>>>

九州支部総会

9月27日(金)佐賀市のホテル「朝風」にて、九州支部総会を開催。会は、新しく支部長に選出された喜多村龍鳳師(本部・副会長)の開会挨拶より始められ、引きつづいて討議を行った。とく

に、九州支部設立以来、数年を経過して勧募活動も一応の目途がついたこともあって、活動の停滞が憂慮されている。支部のあり方についても、一定の目的をはっきりさせていく必要があるのではないかという意見もあり、親睦・研修など納得のいく方向を考えてはどうかなど、討議がすすめられた。また、支部会費の徴収も行っているが、その徴収も十分な成果があらわれず、案内を出しても何の連絡も頂けない方も少なくないことから、このままでは先行きが懸念されるという意見も出た。さらに今回、諸事情が重なって大学からの出席がなく、これでは大学との連携という目的のひとつが失なわれかねないなど、不安がいっそう募ることであった。次回には是非出席をお願いしたいとの意向が確認された。

このように、九州支部では、今後の運営を含めて、さまざまな懸念が生じた。このため、次回以降、早目に期日を設定し、多くの出席が得られるよう、準備をすすめていくことを確認したことであった。

出席者(順不同・敬称略)

稲佐 俊明 宮本 真光 喜多村龍圓
加藤 亮匡 北脇 良哲 森 光栄

会員消息 □□□□□□□□□□

■訃報

平尾恵燈師(昭和2年)9月20日御逝去。徳島県板野郡板野町、高野山真言宗宝厳寺名誉住職。

阿刀暹涯師(昭和24年)9月22日御逝去。社会福祉法人恵松会恵美保育園理事長。

松本安正師(昭和12年)10月4日御逝去。岡山県浅口郡船穂町、高野山真言宗準別格本山寶満寺名誉住職。同窓会岡山・鳥取支部長。

大石慈峰師(昭和14年)1月12日御逝去。仏光院住職。

◎同窓生短信

畠田禅峰師(昭和17年)叙勲・勲五等瑞宝章。
森田美秀師(昭和16年)7月1日、保護司功勞により、三回市長感謝状を受ける。

足立有教師(昭和29年)7月22日、大本山大覚寺臨時宗会において副議長に選任される。

津守るり子氏(旧姓・恒松、昭和59年)12月13日、御結婚。今春より10ヵ月間、オランダに滞在。

吉田大治氏(昭和60年)6年2月3日御結婚。

平成6年甲戌歳 後七日御修法

今年の御修法には、同窓会関係の方々が多数参加されましたので、ここに配役等を紹介します。

(敬称略)

咒頭	大本山	中山	寺	池田	瑩輝
十二天	総本山	仁和	寺	吉田	裕信
伴僧	総本山	金剛峯	寺	佐藤	秀明
神供	総本山	金剛峯	寺	畠田	禅峰
伴僧	大本山	大覚	寺	筒井	清道
聖天	大本山	随心	院	市橋	眞明
事務局別当	総本山	泉涌	寺	川村	俊朝
承仕	大本山	中山	寺	池田	光輝
隨行	総本山	教王護国	寺	岩崎	豊海
	総本山	泉涌	寺	上山	本宗
	総本山	善通	寺	篠原	善照
	大本山	随心	院	南	本源
従弟子	総本山	泉涌	寺	古田	良任

平成六年は 甲戌歳

「甲」と同じ読み「幸」の字がある。

大修館書店『新漢和辞典』によると――

【解字】「天」(わかじに)と「華」(さからうの意)との合字。「若死に」の反対。すなわち「長生きする」意で、転じて「さいわい」「しあわせ」の意とする、とある。

しあわせを 祈る心の華車
しあわせ運び しあわせになる

阿闍梨 瑩輝 五

永田文昌堂

600 京都市下京区花屋町西洞院西
電話075-371-6651 振替京都2-936

仲尾俊博先生古稀記念論集
仏教と社会 定価23000円
山崎泰廣著
密教瞑想法 定価2600円

カワン・パルデン著
北村太道 ツルティム・ケサン共訳
大秘密四タントラ概論
――テベット密教入門――

密教の社会的実践に関する研究

宮城洋一郎著 日原室泉寺教学振興研究助成出版

日本仏教救済事業史研究

宮城洋一郎著 日原室泉寺教学振興研究助成出版

〔内容〕

最澄比叡山入山の意図 最澄の天台法華宗を求めて 傳教大師最澄の法華経観 修祥大師義真について 室生天台の研究 『顕戒論』の成立 室生天台と寂光大師円澄 円修と円珍と円載について 天台僧堅慧(恵)について 室生天台と智証大師円珍

A5判 定価9000円

〔内容〕

律令国家の賑給・救済施策(奈良時代の賑給政策 光明皇后の悲田院・施薬院 平安時代初期の救済施策) 古代の仏教救済事業(行基の救済事業 最澄の伝道者養成と社会的実践 空海の救済事業と弘法大師伝) 中世の仏教救済事業(重源の救済事業・叡尊の仏教と救済事業 中世の四天王寺と叡尊・忍性 室町時代の仏教救済事業)

A5判 定価6500円

平成5年度卒業論文中間発表会

10月19日(火)、20日(水)の両日にわたって、平成5年度卒業論文中間発表会が開催された。各コースの中間発表者の氏名と論題は次のとおり。

〔仏教学コース〕

- 菊地 清子 忍性の文殊信仰と社会事業
 服部 秀敏 初期時宗教団の神祇観
 森川 秀成 「スッタニパータ」における法
 八木 俊道 日蓮の国神観
 米谷 向史 天台大師智顛の禅観
 一覚意三昧を中心として一
 梅原 恭治 善鸞の異義について
 大島 和彦 初期叡山教団における国家と仏教
 浅野 宏 親鸞における平等観
 岩上 幸司 「興福寺奏状」における念仏批判
 榎並 弘泰 「無常経」と「臨終方訣」について
 大家 和 「憲法十七条」における仏教思想

〔密教学コース〕

- 赤塚 祐道 興教大師の弥陀観について
 石谷 智玄 弘法大師入唐の目的について
 上田 慶一 密教法具について
 岡田 裕文 「初会金剛頂経」における五相成身観について
 小川 浩延 興教大師の五藏思想について
 北原 猛雄 弘法大師の般若心経観
 桐谷 啓子 十一面観音曼荼羅の一考察
 高楠 みか 現図胎藏曼荼羅について
 田島 茂樹 般若三藏と弘法大師空海の関係について
 田中 雄三 金剛頂経における金剛薩埵について
 寺井 光 空海の護国思想
 一その背景と根底にあるもの一
 土井美智子 Trailokyavijaya-Kalpa における文殊の真言をめぐって
 名倉 豊詞 辨才天の図像について
 花村 校 即身成仏相における密教思想について
 平木 マキ 空海・最澄と徳一について
 平野 理恵 金剛頂経における八供養菩薩について
 藤原 滋温 密教における植物について
 古川 恵里 弥勒菩薩の図像的表現
 古山 政智 治承記口決下について
 松石 映子 弘法大師と不動尊
 丸家 元 成田山不動尊信仰について

- 山口 耕史 諸経典における十一面観音
 山田 哲也 金剛頂経における金剛愛菩薩の意義
 吉田安紀子 地藏盆と大日盆について
 宇都 貴亮 皇太神宮における両部神道
 尾崎 正和 弘法大師空海における即身成仏観について
 新見 晃正 十住心思想における菩提心の展開について
 渡邊 俊城 弘法大師空海の心経観
 大塚 広高 密教における灌頂について
 高良 剛 釈尊が玄在する密教
 阿刀 弘明 第六住心の位置について
 加藤 晃道 空海と求聞持法について
 渡辺 石人 大日経・受方便学処品における十善戒をめぐって

〔仏教福祉学コース〕

- 浦郷 和司 老人の所得保障
 一年金制度との関係からみて一
 加野 肇 先進国の社会保障について
 一スウェーデン・カナダ・イギリスと日本の比較一
 川端 修平 「福祉倫理と人間学」
 一近年の「ニュー・サイエンス」、或いは、人間文化由来の「哲学・宗教」等から、これからの「人間関係重視」の福祉の在り方を探る。一
 北井 里香 生活保護の保護率の考察
 一生活保護の保護率の高率の原因一
 (京都市を中心にして)
 小林 徹也 児童虐待について
 一虐待児の処遇と彼らを取り巻く環境一
 小林 豊 各国の社会保障比較
 一社会保障の考え方について一
 作城 利紀 要援護老人の処遇をめぐって
 一施設福祉と地域福祉の在り方一
 菅野 宏美 養護学校における障害児の成長と発達を考える 一学校五日制を手がかりに一
 高木 正和 児童福祉とスクールソーシャルワーカー
 高田 顕史 障害者の人権保障について
 谷 厚志 児童福祉と少年非行
 一少年法改正を中心の一
 土田 信寿 老人福祉に関する一考察
 一ホームヘルプサービスをめぐって一
 富浦 憲 高齢化社会における福祉処遇の課題
 一国際比較の一試論一
 長田 隆史 留岡幸助にみる日本社会事業小史
 一その現代的意義一
 橋本 暢敦 外国人労働者について
 一不法就労の実態と政府の対応一

- 播磨 弘美 精神薄弱児者教育と糸賀一雄
—近江学園の実践を通して—
- 水原 真証 ターミナルケアとビハラー運動
- 篠原 康博 老人福祉に関する一考察
—老人の生きがいをめぐる—
- 竹澤 隆海 施設の問題とその対策
—特別養護老人ホームの場合—
- 森田 祐弘 在宅老人の福祉について
—在宅老人の生活環境と公的サービス—
- 浅野 真宏 社会福祉活動の場における社会福祉士の重要性
- 栗田 昌彦 児童虐待をめぐる諸問題について
- 林田 修幸 痴呆性老人をかかえる家族の現状と課題
- 村山 拓司 社会福祉の担い手
—21世紀の子育てを考える—

平成4年度

泉寺日原教学振興研究発表会

11月13日(木)、午後2時30分より、本学講堂にて、平成4年度に助成をうけた各氏により、研究発表会が開催された。

会は、同研究助成の学内委員である北村太道教授の司会ですすめられ、今井圓明学長より、その研究成果への期待が表明された。この日の発表は次のとおり。

- 仲尾俊博名誉教授・日本密教の交流と展開
山崎泰廣教授・『小田慈舟講伝録』第一巻
吉田 元教授・ヨーロッパ人の弘法大師紹介
中村幸子教授・弘法大師請来正系曼荼羅の研究
宮城洋一郎教授・日本仏教救済事業史研究および密教の社会的実践に関する研究
白木利幸氏・四国遍路と遍路修行

なお、平成5年度において同助成を受ける方々は次のとおり。

- 頼富本宏教授・インド・日本の密教尊格の比較研究
北村太道教授・チベット密教の修法儀式に関する研究
滝村雅人講師・大正期における仏教社会事業の理論・実践研究
北尾隆心講師・日本密教の宇宙観

『粋に生きよう』〈紹介〉

米岡法輪 著

昭和54年が私の種智院大学の卒業の年です。早くも15年の月日が流れてしまいました。今も気持ちは大学生のままなのですが、体がなんとも…。

卒業後、一時小学校の教師をしていたのですが、7年前に京都の自宅を改築しまして「明王院」なる寺院を作り、並行して信者団体の「倭の會」を設立、現在にいたっています。

この『粋に生きよう』の本は、ゴルフ雑誌で有名な「アルパ」を出版しているスタジオシップ社より発行し、金額は1,800円です。著者は米岡法輪で全国の書店にてお求め下さい。

内容は昨今の宗教ブーム、特に妙な霊能力を中心としたマスコミや書籍に問題を投げかけ、純粋な密教の教えと、日本人独特の思想(私はこれをヤマト的思考という)を、まじめに見つめようと思ひ、出版の運びになりました。

ヤマト的思考とは日本人独自の発想(ワビ、サビやおくゆかしさ等、忘れられようとしている日本人の考え方)と日本人の古代からの血の流れが影響し(宗教面でも血脈という)、文化や宗教を作ったのではないかと思ひ、論として登場させました。



密教における学論として新マンダラの登場を出しています。(メビウス論・立体マンダラ考など私独自の発想です)。どうかお楽しみにお読み下さい。

写真は、趣味で教える武道・日本拳法の指導しているところです。この写真を見られて私を思い出した方々はお手紙を……。待っていますよ。

〒617 京都府長岡京市高台2-2-3

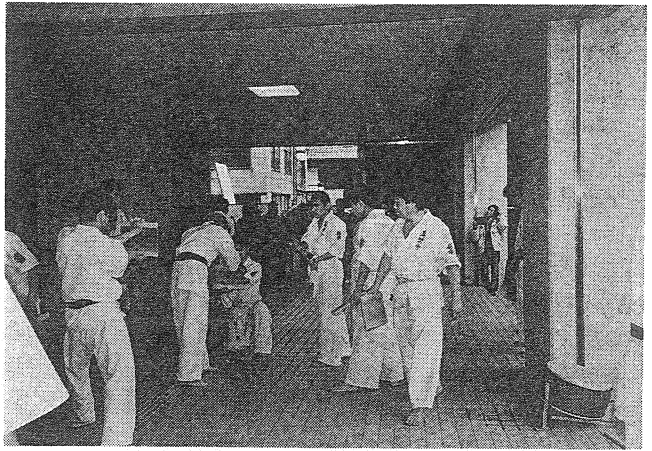
「倭の會」内 米岡法輪 記す

綜芸祭

平成5年度綜芸祭（実行委員長・3回生 上出知紀

君）は「Tim Spirit 86400秒」をテーマに、11月21日（日）に開催。日曜日開催は数年ぶりのことであった。御影供の日でもあったので、数多くの方々が参集された。メインは「ぜんじろう」の司会のもとでの「女装コンテスト」であった。TVで人気者のタレントを招いてのことで、会場にはあふるばかりの観客が集まった。また、あいにくの雨模様の天気であったが、模擬店も例年にない参加があり、すこぶる盛会であった。

模擬店、展示などに参加のクラブは次のとおり。（順不同）



合気道部、FCアポロ、音智会、華道部、花鳥風月、軽音楽部、社会福祉研究会、柔道部、ソフトボール部、禅定同好会、文芸サークル。

常楽会

平成5年度常楽会は、12月18日（土）午前10時より講堂にて開催。今年度は

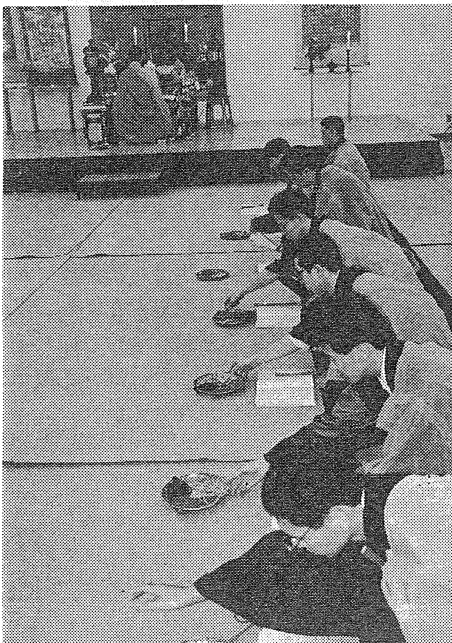
「中曲理趣三昧」により、法要が行われることになった。導師は宗教部長・山崎泰廣先生。学生の配役は別記のとおり。常楽会にむけて学生諸君は宗教部の先生方や都筑大乘、宇垣泰明、沖津祐照職員の指導を受けながら懸命に取り組み、すばらしい法要が実現することになった。

前讃（四智梵語） 真木教日子（1回生）
（大日讃） 宮津 智念（1回生）

（不動讃）

祭文	西 明洋（1回生）
散華	神野 恵（2回生）
対揚	小城 秀全（2回生）
唱礼	須方 稔（3回生）
後讃（四智漢語）	山崎 泰廣先生
（心略漢語）	長尾 和人（1回生）
（仏讃）	長谷川 芳生（1回生）
和讃	高橋 吉信（2回生）
至心廻向	古川 晶太（1回生）
会奉行	服部 秀敏（4回生）
承仕	神野 恵（2回生）
	山田 智（1回生）
	木原 圭一（1回生）
経頭	神野 恵（2回生）
職衆	阿部 直治（1回生）
	平木 マキ（4回生）
	池田 真彦（2回生）

なお、服部秀敏君（4回生）は、1回生以来、降誕会・常楽会の法要のすべてに参列した。



就職難時代を迎えた

大学の就職事情

平成5年6月から、学生部就職担当として勤務しております。本学も年々学生が増加するとともに、就職希望者も増加しております。ご高承のとおり、バブル崩壊による経済環境に変化、企業収益の悪化から、今年度の就職戦線は予想以上のきびしさで推移しました。売り手市場から完全な買い手市場となり、大企業の大巾採用減などによる量より質の厳選採用となりました。また企業側の採用経費の削減もあり、資料請求しても連絡がない、会社説明会の問い合わせをしても答えてもらえず、ということもあり、色々と問題を残した年でした。

こうしたことを背景に、企業側の採用選考もシビアになり、面接回数の増加、筆記試験による選別など、学生にとっては受難の年であったと言えます。

そんな中で、本学は平成6年3月卒業予定者68名、就職希望者38名の中、34名が12月末現在で内定しており、社会全般の内定率より高い数字となっています。卒業者に占める就職希望者数が他校より少ないのは、大学院・専門学校への進学者が多いこと、宗門学生が多いという本学の特殊性を反映しているものと思われます。

さて、平成6年度度の就職環境ですが、不景気が一段と進むことが予想され、就職活動が更に大変となると思われます。このため、3回生を対象に10月26日に第1回の就職ガイダンスを開催、「就職活動の手順」「就職環境」「企業が期待する人間像」「資格取得などの就職対策」などを説明、また12月7日には、本学としては、はじめての「職業適性テスト」を協同出版社に依頼して実施しました。更に、6年1月18日に「就職戦線の歩き方」をテーマに第2回ガイダンスを開催する予定で、4月中旬には面接講座を中心とする、第3回ガイダンスと「一般常識テスト」を実施することになっています。

就職担当としての任務である

- 1、就職先に関する正確な情報をできるだけ多く学生に提供すること。
- 2、自己分析を中心とした、自己の能力、適性の認識の指導。

3、本人の適性を加味した就職先、職種への選択への助言。

を中心に、月、火、木曜日の週3日の勤務ではありますが、全力を尽くしたいと思っています。

最後に、同窓会先輩諸師へのお願いですが、本学の卒業者に適しい就職先がありましたら、ぜひご一報いただきたいと思っています。

どうか宜しくお願いいたします。(西堀)

※本年6月より、元大丸百貨店取締役・西堀潔氏を、本学就職担当職員としてお招きし、就職指導の任にあたって頂いております。

会費納入のお願い

平成5年度総会において、会費収入の減少が指摘され、このままでは同窓会運営の危機であることが叫ばれてきています。

そこで、同窓会平成5年度幹事会において、広告収入の増加をはかり、会費納入促進の契機としてはどうかとの御提案がありました。事務局では、この御提案を体して、役員の皆様方に名刺交換の広告をお願いすることになり、ここに多くの方々の御協力を頂くことになりました。あらためて御礼申し上げます。

また、役員でもある水谷修夫師からは、同窓会の会計事情をご心配され多大な寄付をさ頂いた。同窓会の運営に御気遣いを頂いたこと、大変ありがたく、事務局一同、深く感激しております。

このように、同窓会の運営に寄せる皆様方の熱い思いがこめられて、名刺交換の広告となったわけであります。この現状は、やはりここ数年つづいている会費収入の減少にあります。同窓会が、新校舎建築事業の一翼を担って、再出発した折には、多数の方々が勧募に応じるとともに、会費も積極的に御納入頂き、同窓会の運営は飛躍的に伸びていきました、しかし、校舎建築が成功し、平穩な日々に戻ると、同窓会への関心も少しづつさめてきているようでもあります。これにともない会費収入も減少してきたのであります。

事務局では、会費収入を上げるべく、会報発行ごとに、未納入の方々、年会費の未納の会員の方々に、ご連絡させて頂いております。会費が未納の方は、会報に同封される納入のお願い状、振替用紙をご確認をお願いし、積極的なご納入を重ねてお願い申し上げます。

迎 春

東寺真言宗宗議會議長
東寺真言宗別格本山法興寺住職

東 田 教 範

〒755 山口県宇部市新天町一―二―一八
電話(〇八三六)二一―二八八〇

FAX(〇八三六)三五―五五五一
(昭和二十四年)

大本山随心院事務長

市 橋 眞 明

〒605 京都市東山区泉涌寺山内町三六
雲 龍 院
(昭和二十五年)

北海道三十三観音霊場第七番札所

小樽高野山日光院住職

宮 本 成 雄

〒047 小樽市富岡二―二二―二二
電話(〇一三四)三二―二九八九

(昭和二十九年)

同窓生の御健勝を祈る

種智院大学同窓会 大阪支部

支部長 田 中 実 道 (昭和22年卒)

大阪市福島区海老江7-17-18

- | | | | |
|------|------------|------------|------------|
| 副支部長 | 西端 良諦 (23) | 法本 弘文 (23) | 見城 芳行 (24) |
| 会 計 | 玉山 順彦 (55) | 事務局 | 土屋 博秀 (37) |
| 幹 事 | 藤崎 信幸 (35) | 上田 豊宣 (55) | 岩上 匡志 (55) |
| | 井上 俊章 (59) | 佐野 剛空 (60) | 西田 義範 (62) |
| | 中江 康明 (H5) | | |
| 監 査 | 北村 太道 (36) | 小西 光延 (41) | |

「西院流能禅方伝授録」全七巻

加藤宥雄編 定価 六五、〇〇〇円

「八結・金玉・異水伝授録」全一巻

加藤宥雄編 定価 一三、〇〇〇円

「西院流伝授手控」

土宜法龍筆写 定価 二、〇〇〇円

加藤宥雄筆

「堂上儀西院流傳法灌頂教授手鑑」

加藤宥雄筆写 定価 三、〇〇〇円

「東寺定額僧院之血脈相承次第」

定価 八〇〇円

高井隆秀教授 還曆記念論集 『密教思想』

定価 八、〇〇〇円

種智院大学 密教学会

京都市南区壬生通八条下る東寺町五四五

電話(〇七五)六八一―六五―一三 一六〇―一

振替京都〇―一三〇三八